

# 参議院長野選挙区補欠選挙 立候補予定者政策アンケート結果

4月25日投票予定の参議院長野選挙区補欠選挙には、小松 裕氏（自由民主党）、羽田 次郎氏（立憲民主党）、神谷 幸太郎氏（NHK 受信料を支払わない方法を教える党）の3名が立候補を表明していた（3月17日現在）。

長野県保険医協会では、規約で会員個人の思想信条、政党支持は自由であると明記しており、特定の政党や候補者の推薦はしない。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策や患者負担増を中心とした医療制度改革などの国会審議が行われる中で、今回の選挙は重要な選挙といえる。

本会では立候補予定者にアンケートを実施し、医療政策等に関する質問項目への回答と「医療政策に関する自由意見」を求めた。

3月18日に各候補者に郵送、4月5日締め切りとした。

なお、送付後に1名の立候補表明があり協力を依頼したが本会への連絡がなかった。

本紙での掲載は左から回答到着順とし、政党名は自由民主党が「自民」、立憲民主党が「立憲」、NHK 受信料を支払わない方法を教える党は「NHK 党」とし、氏名の敬称は略させていただいた。

2頁から質問項目を掲載した上で回答を一覧にした。回答が無いものは「未回答」とした。アンケートの本文は最終頁を参照されたい。

本アンケート結果は協会ホームページにも公表する。また、長野県保険医協会では選挙後に当選議員に対してアンケートへの回答などをもとに要望懇談していくことを予定している。

2021年4月6日 長野県保険医協会

長野県区

<p>立候補予定者（到着順）</p>			
	<p>羽田 次郎 立憲</p>	<p>小松 裕 自民</p>	<p>神谷 幸太郎 NHK 党</p>
<p>問1 新型コロナウイルス感染症対策</p>			
<p>(1) これまでの国の政策に対する評価</p>	<p>評価しない</p>	<p>評価する</p>	
<p>(理由・意見)</p>	<p>安倍首相によるアベノマスク、学校閉鎖は論外として、GoTo トラベルなどの経済重視、生命軽視の政策は評価することはできません。</p>	<p>感染症対策の点においては、新しい未知のウイルスに対して医学的エビデンスがまだ十分でない中、可能な限りの対応をしていると思います。また緊急事態宣言によって一定の結果が出ている一方、持続化給付金や雇用調整助成金などによる下支え政策がも効いていると思います。しかし、医療の現場との連携がまだまだ不十分であり、国民に対しても、政策決定の理由やその先行き、「例えば今はこういう状態だから、ここはいつまで我慢してくれ」というような、メッセージの発信が不十分で、国民の理解が得られていないことは残念です。</p>	<p>期日までに政策に関する見解が得られませんでした</p>

(2) 医療機関向けの持続化給付金など減収補填対策	賛成	その他	
(理由・意見)	<p>感染症対策は国家として対応する事業です。そのため医療機関等に減収があった場合、国が補填することは当然です。</p>	<p>医療機関の昨年4月から本年1月までの前年比減収額が約1.4兆円に対し、病床確保や感染拡大防止等の補助など、医療機関に対する支援として4.6兆円の予算を計上するほか、診療報酬の引上げなども行っており、地域医療の確保に必要な支援に取り組んでいます。</p>	
(3) 医療従事者等への定期的なPCR検査等の無料実施	賛成	その他	
(理由・意見)	<p>エッセンシャルワーカーには早期に無料で定期的にPCR検査を行う必要が有ります。医療・介護従事者に対する検査は医療体制を維持し、感染拡大を防ぐための第一歩です。</p>	<p>医療機関、高齢者施設等の入院・入所者は重症化リスクが高く、施設の感染対策の強化が重要との考え方に立ち、感染者が多数発生している地域において、その期間、症状がない方も含め勤務する方等を対象に、いわば一斉・定期的な検査を実施するよう都道府県等に要請してきたと承知しています。この検査は実質的に全額国の負担で行うこととしています。</p>	<p>期日までに政策に関する見解が得られませんでした</p>

立候補予定者	羽田 次郎	小松 裕	神谷 幸太郎
	立憲	自民	NHK 党
問2 医療費の患者窓口負担割合			
(1) 義務教育終了まで無料	賛成	反対	
(2) 義務教育終了後から70歳未満は2割	その他	反対	
(3) 70歳以上は一律1割	賛成	反対	
(理由・意見)	<p>貧困による受診抑制が働かないよう弱者対策は必要です。但し長続きする保険制度を維持するための給付と負担割合については長期的な視点と広範な財源論議と合意が必要だと思っています。</p>	<p>医療費の患者窓口負担を更に軽減することは、公費負担のみならず保険料負担も増加するものであり、保険者の厳しい財政状況と、年齢間の自己負担割合のバランスを踏まえると、慎重に検討していかなければならない課題であると考えています。</p> <p>70歳から74歳の自己負担については、社会保障制度改革国民会議報告書等を踏まえ、平成26年4月以降新たに70歳になる方から段階的に2割負担としていますが、これは世代間の公平を図り、制度を将来にわたって持続可能なものとするため必要な措置であると考えています。</p>	<p>期日までに政策に関する見解が得られませんでした</p>
問2 今後予定される医療制度改革等			
(1) かかりつけ医以外を受診した場合の定額負担徴収	反対	その他	
(理由・意見)	<p>原則、医療機関の選択は自由にできるようにしておかなくてはならないと考えます。高額な定額負担はなりません。</p>	<p>外来受診時の定額負担については、医療機関の役割分担推進の観点から、大病院に紹介状なしで受診した場合の定額負担について、対象病院（200床以上で地域の実情に応じて明確化される紹介患者への外来を基本とする病</p>	

		院) や負担額を見直すこととされていると承知しております。	
(2) 75歳以上の窓口負担を原則2割へ引き上げ	反対	その他	
(理由・意見)	受診抑制が働かないよう1割負担は守っていくべきです。	75歳以上の窓口負担の在り方については、「全世代型社会保障改革の方針」(令和2年12月15日閣議決定)において、現役世代の負担上昇を抑制する観点から、医療費の窓口負担割合が現在1割とされている高齢者であっても、一定所得以上の方に限っては負担割合を2割に引き上げることとされたことと承知しています。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした
(3) 湿布や漢方薬などなど市販類似薬の保険外し	反対	その他	
(理由・意見)	治療に必要なものは保険給付するべきです。	医薬品の適正給付の観点から、平成28年度診療報酬改定により、1処方につき計70枚を超えて湿布薬を投薬する場合、70枚を超えた分の薬剤料は算定できないこととなりましたが、医師が医学上の必要性があると判断した場合は算定可能となっています。我が国においては、国民皆保険の理念の下、必要かつ適切な医療は基本的に保険給付の対象としており、この考え方に変わりはありません。	

立候補予定者	羽田 次郎	小松 裕	神谷 幸太郎
	立憲	自民	NHK 党
(4) 紹介状なしの定額負担の対象病院拡大	反対	賛成	
(理由・意見)	外来定額負担そのものに反対します。	医療機関の役割分担推進の観点から、大病院に紹介状なしで受診した場合の定額負担について、対象病院（200床以上で地域の実情に応じて明確化される紹介患者への外来を基本とする病院）や負担額を見直すこととされていると承知しております。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした
問4 国民健康保険制度			
(1) 国保の国庫支出金の割合の引き上げ	賛成	その他	
(理由・意見)	財源論議として賛成です。国保保険料が高額すぎる弊害は出ています。対応が必要です。	市町村国保においては、公費を他の制度より手厚く投入するなどの措置を講じており、さらに国保改革においては、国保の財政状況に鑑み、毎年約3,400億円の財政支援を行い、財政基盤を大幅に強化したところです。引き続き拡充した公費により効果的・効率的な財政支援を実施し、安定的な制度運営を行うものと承知しています。	
(2) 子どもの均等割の廃止	賛成	その他	
(理由・意見)	少子化対策上当然廃止すべきです。	国保制度における均等割の趣旨（全ての被保険者が等しく保険給付を受ける権利があり、被保険者全体の相互扶助として、応分の保険料を負担していただく必要がある）から、その全額を免除することは適当ではないと考えています。なお、未就学児に係る均	

		等割保険料の軽減については、必要な措置を講ずるため、第204回通常国会に「全世代対応型の社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律案」を提出しています。	
(3) 福祉医療の窓口無料化に対する国庫負担金減額措置の全面廃止	賛成	その他	期日までに政策に関する見解が得られませんでした
(理由・意見)	自治体による自主的な福祉事業を国が阻害することは許されません。	国保の減額調整措置は、市町村における医療費助成によって窓口負担が減額される場合、国保財政に与える影響や限られた財源の公平な配分等の観点から、増加した医療費分の公費負担を減額調整していると認識しています。 なお、子供の医療費助成に係る国保の減額調整措置については、関係審議会における議論等を踏まえ、対象を未就学児までとしたところであり、更なる見直しについては慎重な検討が必要と考えています。	
問5 消費税、社会保障財源等			
(1) 消費税率を当面5%へ引き下げ	その他	反対	
(理由・意見)	税率は状況により変更されるべきですが賛成です。	社会保障財源として極めて重要なものと考えます。一方、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた方々への支援も重要であり、用意した各種支援を早くお届けし、引き続き状況に応じた支援をしていくべきと考えます。しかし、今後の経済状況によっては、期限付きで消費税の引き下げもありうるとの考えです。	

立候補予定者	羽田 次郎	小松 裕	神谷 幸太郎
	立憲	自民	NHK 党
(2) 社会保障の財源は消費税ではなく、 直接税や保険料で賄うべきとする考え方 (理由・意見)	賛成  社会保険の社会保険たる所以は 応能負担による社会的扶養に あると思っています。	その他  高齢化と人口減が進行する中 でも社会保障を維持するため には、広く負担を分かち合う消費 税と、能力に応じて負担する保 険料等を、それぞれの特徴を踏 まえながらバランスよく組み合 わせていく必要があると考えま す。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした
(3) 保険診療にかかる消費税はゼロ税率 とすること (理由・意見)	その他  保険診療に使う医療材料等にか かる消費税相当分については 戻し税の制度を整えるべき。	その他  公的保険の適用となる医療サ ービスは、社会政策的な配慮に 基づき非課税とされている経緯 があり、課税化・ゼロ税率の導 入には慎重な検討が必要なもの と認識しております。	
問6 その他			
(1) 初・再診料を中心とした診療報酬引 き上げ (理由・意見)	反対  受診抑制となることには反対 します。	その他  2020 年度の診療報酬の改定率 については、医療機関の経営状 況、賃金・物価の動向等を考慮 した結果、+0.55%となりました。 2022 年度診療報酬改定につ いては、今後、政府において本 格的な議論を行うこととなるもの と認識しています。	

(2) 地域医療構想は白紙とする	賛成	その他	
(理由・意見)	地域医療構想は地域社会を破壊します。	地域医療構想は、地域ごとに医療機関の役割分担や連携について議論していくものであり、その趣旨自体には賛同しますが、今回の新型コロナにより、感染症対策も含め地域医療の在り方を再考すべきです。	
(3) マイナンバーカードに口座番号や医療情報をリンク	賛成	賛成	
(理由・意見)	情報の漏洩対策、本人の同意、目的外使用の禁止などを前提として進める必要が有ります。医療・福祉の科学的な発展、分析、研究に資すると共に制度を超えた個人別の継続的疾患、健康管理に対応できればと思っています。	<p>口座番号については、政府からの各種給付金を迅速かつ確実に給付することにより、利用者の利便性向上に資するものと考えます。</p> <p>医療情報について、マイナンバーカードによる厳格な本人確認と患者本人の同意のもと医療機関等と共有できるようにすることで、正確な情報に基づくより良い医療の提供に繋がると考えています。</p>	期日までに政策に関する見解が得られませんでした
(4) 国の制度として妊産婦医療費無料制度を創設	賛成	反対	
(理由・意見)	少子化対策として当然行うべき施策だと思います。	医療保険が適用されず、全額自己負担になる妊婦健診について14回分の地方交付税措置を講じている中で、自己負担を更に軽減するために自治体が独自に行っている助成制度を、全て国の制度として運用することは、厳しい財政状況等を勘案すると、現時点では課題が多く、慎重な検討が必要であると認識しています。	

立候補予定者	羽田 次郎 立憲	小松 裕 自民	神谷 幸太郎 NHK 党
問7 医療政策に関する自由意見	<p>保険は本来、収支は均衡するべきですが、少子高齢化社会では公保険に対して一般財政からの繰り入れは必然となっています。この繰り入れ比率、額をどれ程にするかが政治の姿勢、政策の違いだと思っています。弱者にやさしい政治、子育て、福祉、家計と暮らしの不安を安心にしていく政治を目指します。</p>	<p>医療政策は安心して暮らしていける社会を創るためには大変重要な政策であると認識しています。一方、少子高齢化社会において、年々社会保障費や医療費が増加しているという現実もあります。将来の世代につけを残さないためにも、「お金をかけずに健康を創っていく仕組み」を今の我々が真剣に考えていかなければならない、と強く感じています。安い医療費で健康長寿を保っている長野県こそが、全国に向けてそれをリードする役割を担っていきたいと思います。</p>	<p>期日までに政策に関する見解が得られ ませんでした</p>

## アンケート質問項目

### 問1 新型コロナウイルス感染症対策について

- (1) 新型コロナウイルス感染症へのこれまでの国の政策
  - 大いに評価する  評価する  評価しない  全く評価しない
- (2) 減収割合などに応じた医療機関向けの持続化給付金など減収補填対策
  - 賛成  反対  その他
- (3) 医療従事者、介護従事者に対して定期的に PCR 検査等を無料実施
  - 賛成  反対  その他

### 問2 医療費の患者窓口負担について

- (1) 義務教育終了まで無料とすることに
  - 賛成  反対  その他
- (2) 義務教育終了後から70歳未満は2割負担とすることに
  - 賛成  反対  その他
- (3) 70歳以上は1割とすることに
  - 賛成  反対  その他

### 問3、今後検討が予定される医療制度等改革について

- (1) かかりつけ医以外を外来受診した場合に患者に定額負担を求めることに
  - 賛成  500円程度なら賛成  反対  その他
- (2) 75歳以上の窓口負担について原則2割に引き上げること
  - 賛成  反対  その他
- (3) 湿布や漢方薬などの市販類似薬を保険給付から外すことに
  - 賛成  反対  その他
- (4) 紹介状がない場合の大病院への外来受診時に定額負担を求める対象病院の拡大
  - 賛成  反対  その他

### 問4 国民健康保険制度について

- (1) 国保財政への国庫補助率を総医療費の45%に戻すこと
  - 賛成  反対  その他
- (2) 国保保険料(税)の算定において子どもの均等割は廃止することに
  - 賛成  反対  その他
- (3) 福祉医療費の窓口無料など自治体事業に対する国保の国庫負担金減額措置を全面廃止することに
  - 賛成  反対  その他

### 問5 消費税、社会保障財源等

- (1) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経済対策として消費税率を当面5%へ引き下げること
  - 賛成  反対  その他
- (2) 社会保障の財源は逆進性の高い消費税ではなく、応能負担原則を徹底して直接税や保険料で賄うべきだとする考えに
  - 賛成  反対  その他
- (3) 保険診療にかかる消費税はゼロ税率とすることに
  - 賛成  反対  その他

### 問6 その他

- (1) 診療報酬を初・再診料を中心に大幅に引き上げること
  - 賛成  反対  その他
- (2) 公立・公的病院の再編統合など地域医療構想は白紙に戻すことに
  - 賛成  反対  その他
- (3) マイナンバーカードに口座番号や医療情報をリンクさせることに
  - 賛成  反対  その他
- (4) 国の制度として妊産婦医療費無料制度を創設することに
  - 賛成  反対  その他

### 問7 医療政策に関する自由意見

医療に対する貴殿の意見をご記入ください。

